

シダ植物

(現状の解明度)

広島市のシダ植物相は、地域的には未調査のところもあるが、ほぼ解明されている。これまでの調査で22科257種のシダ植物が確認されている。

(選定候補種の抽出過程)

「広島県版レッドデータブック」及び「広島市稀少^き生物調査報告」を中心に、市域で記録された希少種を取り上げた。選定要件は、調査で得られた資料に基づき判断した。

(現地調査結果)

広島市の北部太田川中流域には自然度の比較的高い峡谷、森林がありシダ植物が豊富にみられる。このため、市域の山地、峡谷を中心に現地調査を行った。

今回の現地調査で再発見または新たに発見されたものは、ミズニラ、ハマハナヤスリ、ハコネシダである。

ミズニラは、旧東練兵場(現在の東区二葉の里)の記録があり自生が確認されていたが、その後の記録がなく市域からは絶滅したと考えられていた。しかし、今回の調査期間中に安佐北区で1カ所自生が確認され、保護が望まれる。

ハマハナヤスリは安芸区上瀬野南の人家の庭に生育しているものが確認された。ハマハナヤスリは狭義のハマハナヤスリとコハナヤスリに区別されることがあるが、連続して変化し区別の困難な場合があり、市域のものはハマハナヤスリとして記録した。同じ庭にイワヒバ、ヒトツバなど人為的に植えられたシダもみられたが、本種は自然に生えたものと思われる。

ハコネシダは、これまで県東部の岡山県境に自生地が知られていたが、今回の調査により安佐北区で発見され、県西部でも自生していることが明らかとなった。

その他選定種についても新たな産地を加えることができた。

ヘイケイヌワラビは、「広島市稀少^き生物調査報告」の調査で1株確認されていた。「広島県版レッドデータブック」では現状不明となっているが、今回の調査では1株の自生を確認できた。

(選定結果)

16種を選定した。内訳は絶滅3種、広島市の絶滅のおそれのあるもの12種(絶滅危^く惧6種、準絶滅危^く惧5種、情報不足1種)、環境指標種1種である。

(選定しなかった種とその理由)

「広島市稀少^き生物調査報告」の選定種のうち今回取り上げなかったものは、つぎのとおり、県内において産地や個体数が多く当面絶滅のおそれのないものである。

アイアスカイノデ、アオネカズラ、イヌチャセンシダ、イワヒバ、イワヤシダ、ウスヒメワラビ、ウラボシノコギリシダ、オオカグマ、オオカナワラビ、オオキヨスミシダ、オオハナワラビ、オオフジシダ、オニヤブソテツ、カタイノデ、カタヒバ、ギフベニシダ、クジャクフモトシダ、クリハラン、コバノカナワラビ、コバノヒノキ

シダ, コヒロハハナヤスリ, シモツケヌリトラノオ, シロヤマシダ, タカサゴキジノオ, トキワトラノオ, ナガバノイタチシダ, ヌリトラノオ, ヌリワラビ, ノコギリシダ, ハイホラゴケ, ヒカゲワラビ, ヒメサジラン, ヒメノキシノブ, ヒロハヤブソテツ, フクロシダ, ヘラシダ, ミズスギ, ミドリカナワラビ, ミヤコヤブソテツ, ミヤマイタチシダ, ヤマソテツ, ヤマドリゼンマイ

このほかに、市域では希少であるが県北部に比較的広く分布するものとして、ナツノハナワラビ, ヤシャゼンマイ, クジャクシダ, カラクサシダ, タニヘゴ, クサソテツ, コタニワタリ, サジラン, オシャグジデンダ, シシランがある。産地は少ないが個体数の多いものとして、オオヒメワラビモドキ, イブキシダ, コモチシダ, カミガモシダ, ヤノネシダがある。カミガモシダは今回の調査で太田川中流域右岸の小谷に群生しているのを確認し本地域に多産することが分かった。ホウライシダ, イヌケホシダは個体数が増加していることから選定しなかった。アマクサシダ, イシカグマは瀬戸内海沿岸島しょ部に多くみられることで選定しなかった。

シダ植物の選定種

絶滅・絶滅

ミズワラビ

デンジソウ

サンショウモ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧^く

ミズニラ

ハマハナヤスリ

ホソバショリマ

ヘイケイヌワラビ

アキイヌワラビ

イワヒトデ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧^く

ハコネシダ

ナガサキシダ

ツクシイワヘゴ

オニヒカゲワラビ

オクタマシダ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

アカウキクサ

環境指標種

シノブ

シダ植物

絶滅・絶滅

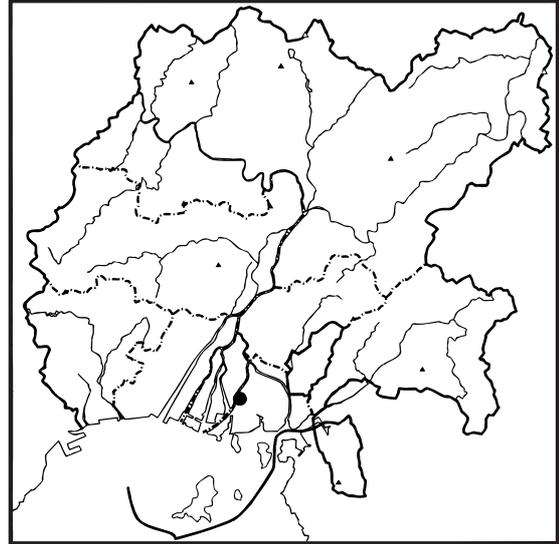
10～20年間確認されていない

ミズワラビ (ミズワラビ科)

Ceratopteris thalictroides

暖地の水田，湿地に生育する水生のシダ。本州（関東以西），四国，九州に分布。根茎は短く，葉は2～3回羽状複葉^{うじょうふくよう}で孢子葉は栄養葉より長い。柔らかい草質である。

南区で記録されているが，生育地は消失している。今回の調査でも確認されなかった。



シダ植物

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない

デンジソウ (デンジソウ科)

Marsilea quadrifolia

水田や沼などに群生する夏緑性のシダ。北海道～九州に分布。根茎は細く泥の中を長くはい，2～3cm 間隔に数枚の葉をつける。20cm 前後の葉柄の先に4枚の小葉を十字形につける。

西区三滝，安佐南区武田山で記録されているが，今回の調査では確認できなかった。



シダ植物

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない

サンショウモ（サンショウモ科）

Salvinia natans

水田や沼などに群生する水生の一年草。本州，四国，九州に分布。葉は茎に3枚の葉が輪生する。その内2枚は浮遊葉で1cm前後の楕円形である。浮遊葉の表面には毛がある。

安佐南区祇園町に記録があるが、それ以後は未確認である。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ミズニラ（ミズニラ科）

Isoetes japonica

浅い川や沼，ため池，湿地に自生する水生のシダ。本州，四国，九州に分布。茎は塊状でニラに似た細長い葉をつける。胞子のうは大胞子のうと小胞子のうに分かれる。

東区での記録があるが，現状不明。今回の調査で，安佐北区で新しく確認された。開発等で絶滅する恐れがある。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

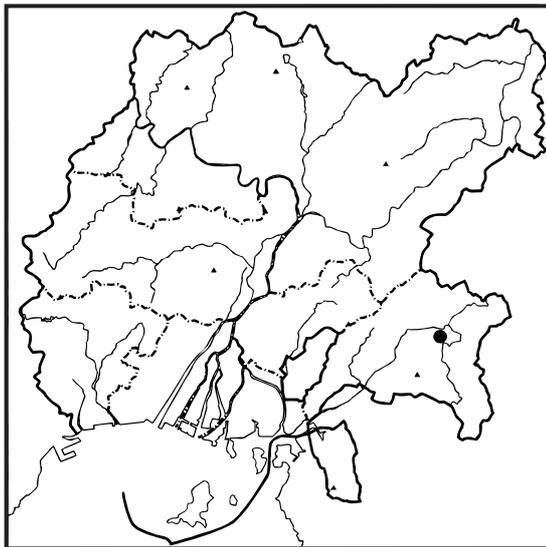
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ハマハナヤスリ（ハナヤスリ科）

Ophioglossum thermale

海浜の砂地に群生するが，草地，河原，墓地にも生育する。北海道～九州に分布。根茎は短く直立し，孢子葉と栄養葉がある。

安芸区の人家の庭に群生しており，生育状況は良好である。本種は自然に生えたものと思われ，除草により消滅する可能性がある。今回調査で発見されたものはコハナヤスリのタイプである。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

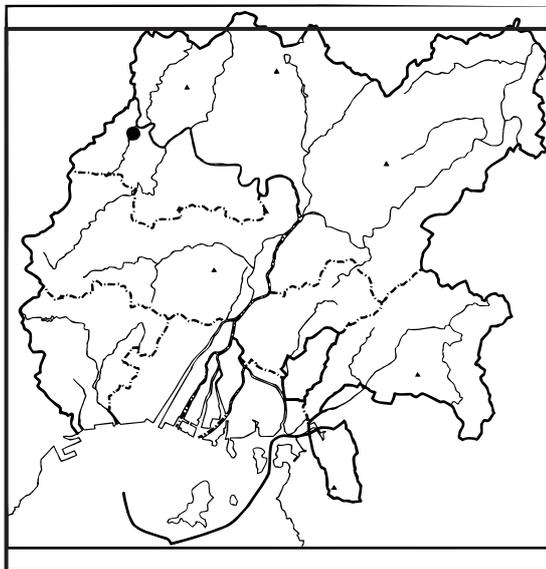
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ホソバショリマ（オシダ科）

Parathelypteris beddomei

本州（岐阜^{ぎふ}，静岡，広島，山口県），四国，九州に分布。根茎で繁殖し群生する。2回羽状深裂^{つじょうしんれつ}，下部の羽片は著しく短縮して耳状となる。

安佐北区の太田川右岸，道路わきの草地の2～3mの範囲に群生し，夏には草刈りで地上部が切り取られることがあるが，生育状況は良好である。道路の拡張による危険がある。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

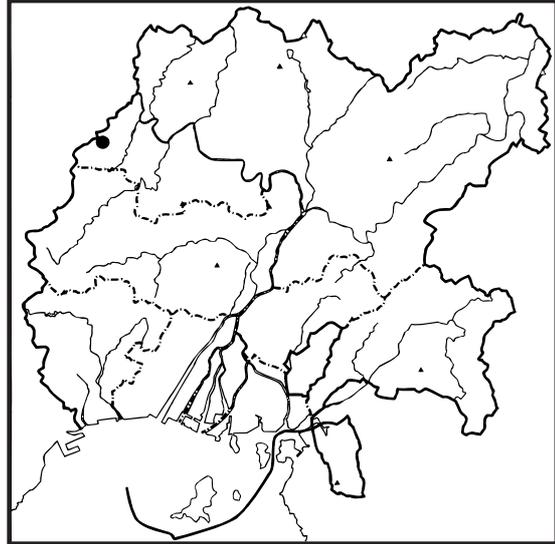
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ハイケイヌワラビ (オシダ科)

Athyrium eremicola

常緑性。本州（兵庫，鳥取，島根，広島，山口県）に分布。葉身は1回羽状複葉で細長く披針形である。側羽片が約15対ある。葉柄と葉軸が赤紫色を帯びている。

安佐北区の溪流沿いの岩上で，1976年に1株記録されている。今回の調査でも1株しか確認できず，きわめて危険な状態と考えられる。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

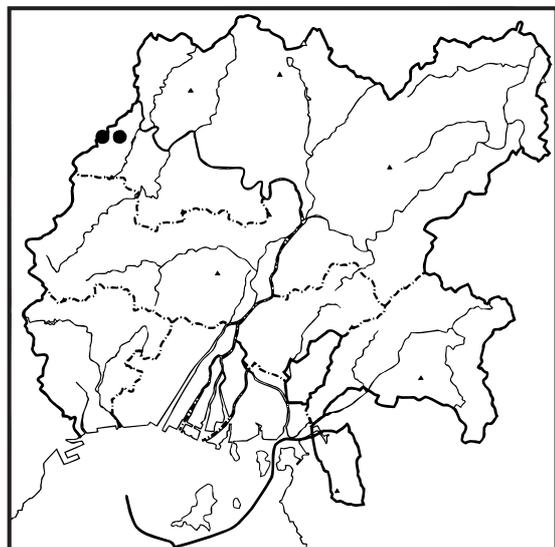
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

アキイヌワラビ (オシダ科)

Athyrium × akiense□

本州（広島，山口県）にごくまれに分布。ハイケイヌワラビとタニイヌワラビの雑種。葉身は2回羽状複葉で羽片の切れ込みは深い。

安佐北区のスギ植林地の斜面にわずかにみられる。10年前とほぼ同じ個体数で，生育状態は良好であるが，植林地であるため，現状が維持されるかどうか確かではない。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

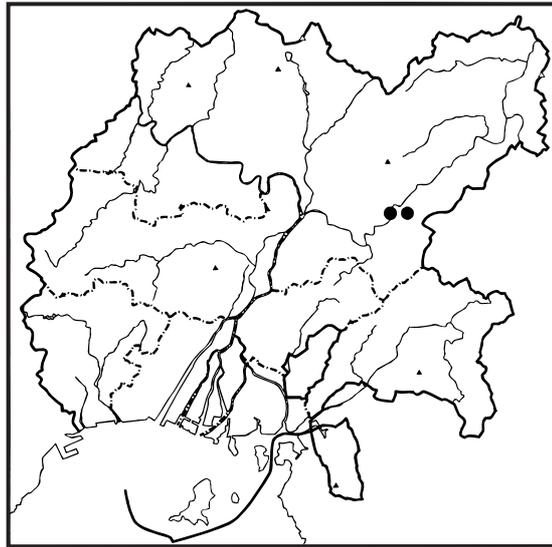
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

イワヒトデ（ウラボシ科）

Colysis elliptica

常緑性。本州（静岡県以西の太平洋岸）、四国、九州に分布。根茎は長くはい、1回羽状複葉。胞子のう群のつく葉は裂片の幅が狭い。

安佐北区の登山道沿いの溪側岩上、地面上に群生地がある。1978年の記録以降、その状況を保っており、生育状況は良好である。河川改修による危険がある。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

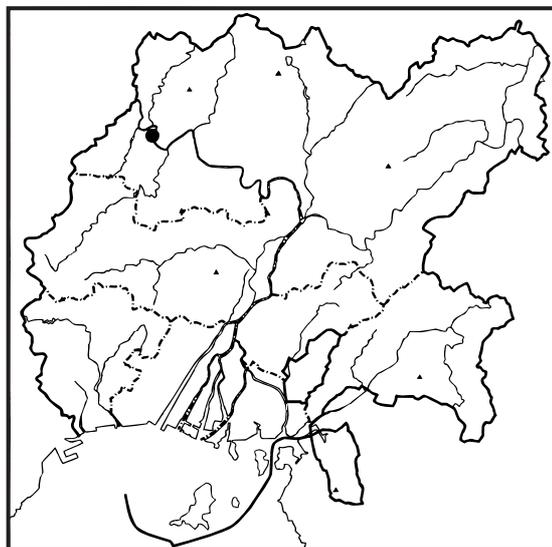
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

ハコネシダ（イノモトソウ科）

Adiantum monochlamys

常緑性。青森県を除く本州、四国、九州に分布。根茎は短くはい、葉を密生する。葉は質が堅く、3回羽状複葉。葉柄は赤褐色。

安佐北区に自生がみられる。岩壁に着生しており、生育状態は良好であるが、1カ所にわずかに生育しているだけであり、危険な状態と考えられる。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

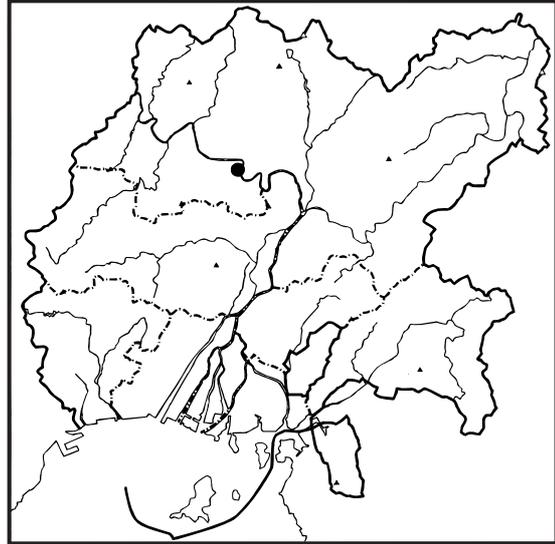
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

ナガサキシダ (オシダ科)

Dryopteris sieboldii

暖地の山林下の陰湿な場所に生える常緑性のシダ。本州（千葉県以西の太平洋側）、四国、九州に分布。根茎は太くはいい、1回羽状複葉の葉を接近して出す。羽片は4～6対で頂羽片がある。葉は厚い革質。

安佐北区のスギ植林下で、1986年に1株記録されているが、今回の調査では未確認である。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

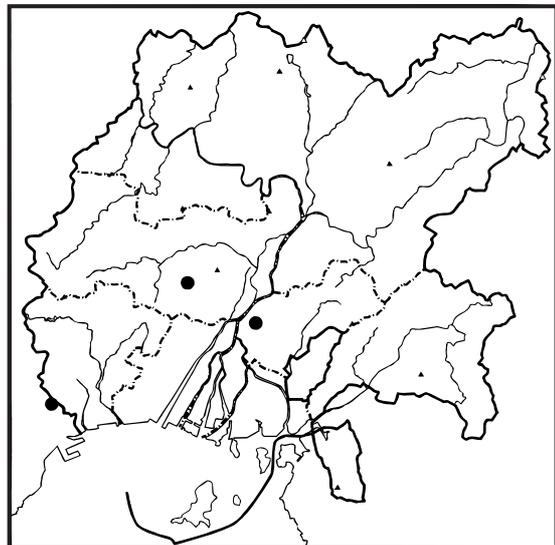
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

ツクシイワヘゴ (オシダ科)

Dryopteris commixta

低山地の樹林下のやや湿った場所に生える常緑性のシダ。本州（千葉、石川県以西）、四国、九州に分布。根茎は太く、1回羽状複葉の葉をつける。

佐伯区、東区、安佐南区で記録されている。生育状態は良好であるが、産地が限定されるため、生育基盤は安定とはいえない。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

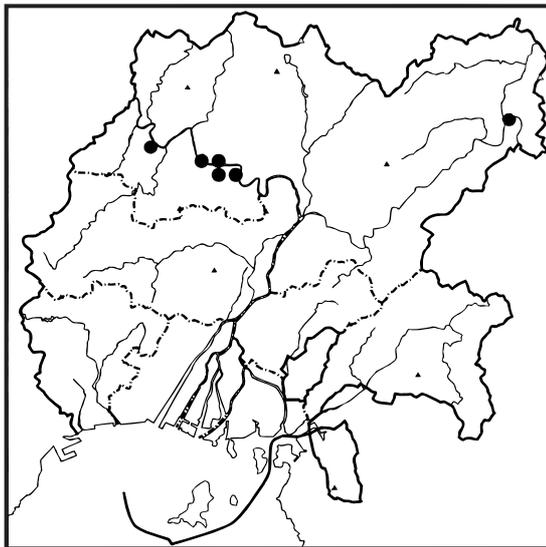
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

オニヒカゲワラビ（オシダ科）

Diplazium nipponicum

山地の陰湿な場所に生える常緑性のシダ。本州，四国，九州に分布。根茎は太くは^{うじょうふくよう}い，2回羽状複葉の大形の葉をつける。鱗片は^{りんぺん}黒褐色で披針形，^{ひしんけい}辺縁に突起がある。

安佐北区の数地点で記録されている。新たな産地も見つかり、生育状態は良好で、現時点では安定しているが、登山道の整備などが減少要因となる。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

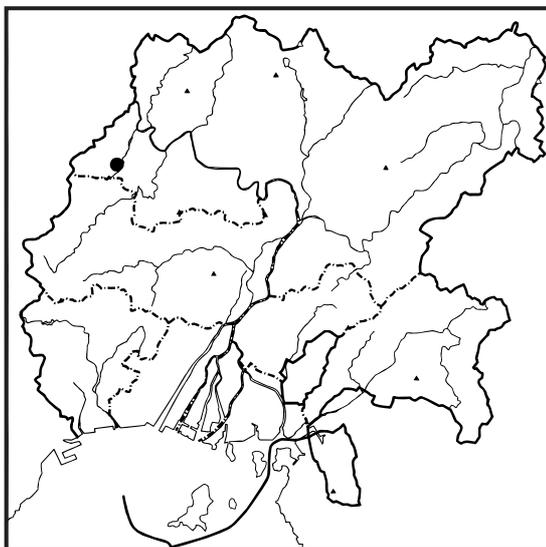
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

オクタマシダ（チャセンシダ科）

Asplenium pseudo-wilfordii

山地の岩上や樹幹に着生する常緑性のシダ。本州（福島県以西），四国，九州（宮崎県）に分布。根茎は短く，葉は集まって出る。陰湿な場所の岩上，樹上に着生し垂れ下がる。

安佐北区の小谷の岩壁上部1カ所にわずかに自生している。近年，とくに変化はみられないが，個体数が少なく自然に消滅する恐れがある。



シダ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

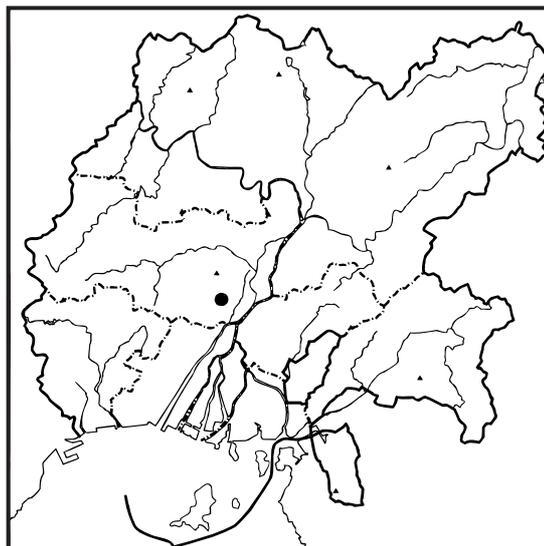
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

アカウキクサ(アカウキクサ科)

Azolla imbricata

水田や沼などに群生する常緑性の水生シダ。本州(静岡県以西), 四国, 九州に分布。茎は羽状に分岐し全体が三角形になる。秋から冬にかけて葉が赤くなる。

安佐南区, 西区(詳細な産地情報なし)で記録されているが, 今回の調査では確認できなかった。沿岸部, 島しょ部の池沼, 水田などでみられるが, 十分な調査がなされておらず, 現状は不明である。



シダ植物

環境指標種

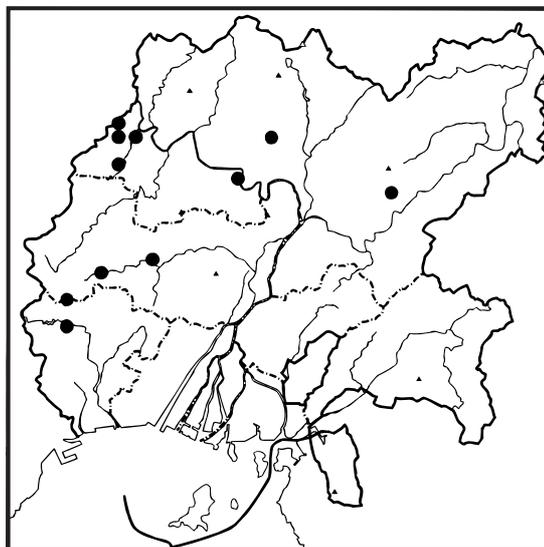
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

シノブ(シノブ科)

Davallia mariesii

山林内の岩上や樹幹に着生する夏緑性のシダ。本州, 四国, 九州に分布。根茎はやや太く褐色の鱗片りんぺんでおおわれ長くはう。葉身は4回羽状深裂しやや五角形をなす。

安佐北区をはじめ, 広く分布している。生育状態は良好で, 個体数も多い。山地の岩峰の人為的影響が及んでいない環境の指標となる。



コケ植物

(現状の解明度)

広島市のコケ植物は完全なフロラができていないので、植生帯がよく似ている廿日市市のコケ植物のフロラを参考にあげると、セン類38科157種、タイ類24科69種、ツノゴケ類1科3種である。広島市の種数もこれに近いものであろう。

広島市のコケ植物を初めて報告したのは河野学一氏で、1906(明治39)年のことである。当時、河野氏は崇徳中学校の教諭で、宮島など広島付近で熱心にコケを採集し、フィンランドのプロテルスに標本を送って同定を依頼している。現在の東区二葉の里にある饒津神社から新種として *Grimmia konoi* Broth. が発表されているが、現在はホソバギボウシゴケの異名とされている。

1930(昭和5)年には、堀川芳雄博士により広島市から初めて数種のタイ類が報告されており、その引用標本には1922(大正11)年採集のヒメジャゴケがある。

広島文理科大学では、堀川博士が着任した1931年以降、博士の指導のもとに多くのコケ植物の研究者が輩出し、その膨大な論文の中に広島市域のコケ植物の引用は多数にのぼる。また、広島市では、特定の地域のコケ植物目録として、1967年の広島市街地、1988年の東区広島女学院大学キャンパス、1990年の中区旧広島大学東千田キャンパスなどがあるにすぎない。今回の調査では、論文中に引用された標本のチェックが十分にはできなかつたため、広島市全域の本格的なコケ植物の目録を作成することは今後の課題である。県内では、宮島、三段峡、帝釈峡、廿日市市、高野町、蒲刈町、下蒲刈町などでコケ植物の目録が作成されている。

(選定候補種の抽出過程)

1997年に環境庁が発表した植物版レッドリストの植物 : センタイ類レッドリストを中心に候補種を選んだ。これは、すべての分類群に共通していえることであるが、全国的な視点から選ばれたレッドリストと、広島市という比較的狭い地域における候補種の選定には、どうしても隔たりがある。たとえば、オオミズゴケはレッドリストでは絶滅危惧^Ⅰ類であるが、広島市では比較的普通のコケである。全国的な視点では、湿原の構成要素として重視したのか、あるいは分類が困難なミズゴケ属の代表として選ばれたのかもしれない。

今回の調査の分科会代表者会議でも、オオミズゴケをどう取り扱うかで議論を重ねた。本種が湿原の構成要素としての場合は、その重要性は高い。しかし、広島市域には規模の大きい湿原はほとんどなく、その多くは溪谷に沿う湿岩上、山道に沿う湿った地上などに小規模な団塊状で生育している。そこで、オオミズゴケを広島市のコケ植物フロラの「自然誌構成種」とするか、「環境指標種」とするかということになる。オオミズゴケの小さい群落であっても、イヌノハナヒゲ属やイヌノヒゲ属など、湿原の要素をしばしば伴っているので、「環境指標種」として取り扱うことにした。今後、環境影響評価の調査などでオオミズゴケが出た場合は、湿原の構成要素なのか、山道の

小規模な団塊なのかなど、その生育状況をよく見極めて評価しなければならない。
(現地調査結果)

コケ植物の豊富な場所は、広島市では比較的限られた地域なので、そこを重点的に調査した。

広島市の最高峰である東郷山の南東にある大谷は3回調査した。そのほか、溪谷として三滝、南原峡(2回)、宇賀峡などに重点を置いた。山地の山頂部や尾根もコケ植物の多い場所であり、荒谷山、絵下山、福王寺山、洞所山などを調査した。窓ヶ山は1999年6月豪雨により登山道が決壊したので、ついに調査ができず残念である。また、白木山も高所の調査が十分にできなかった。島しょ部では、元宇品、金輪島、峠島、似島などを調査した。とくに、峠島は無入島で船便がないが、1999年6月に合同調査を行い、8月にも調査を行った。

その結果、コケ植物約500点の標本を採集した。

(選定結果)

19種を選定した。内訳は、絶滅1種、広島市の絶滅のおそれのあるもの16種(絶滅危惧5種、準絶滅危惧3種、軽度懸念1種、情報不足7種)、環境指標種2種である。

なお、環境庁のレッドリストのセンタイ類で広島市に産するものはすべてあげている。

コケ植物の選定種

絶滅・絶滅

カワゴケ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

カビゴケ

クマノゴケ

ユウレイハウオウゴケ

フロウソウ

ソリシダレゴケ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

サワクサリゴケ

エビゴケ

ツクシヒラツボゴケ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

キノクニキヌタゴケ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

ウロコゼニゴケ

ウキゴケ
イチョウウキゴケ
キセルゴケ
ホウライスギゴケ
ナワゴケ
カトウゴケ

環境指標種

オオミズゴケ
キヨスミイトゴケ

コケ植物

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない

カワゴケ（セン類，カワゴケ科）

Fontinalis hypnoides

清澄な水の流れる小川や溝に生えるセン類。北海道，本州に分布。茎は長く伸び，不規則に分枝して，30cmに達する。

安佐北区より明治年間に採集された古い記録があるが，その後，確認されていない。水環境の悪化に伴って，カワゴケ属は全国的に激減している。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

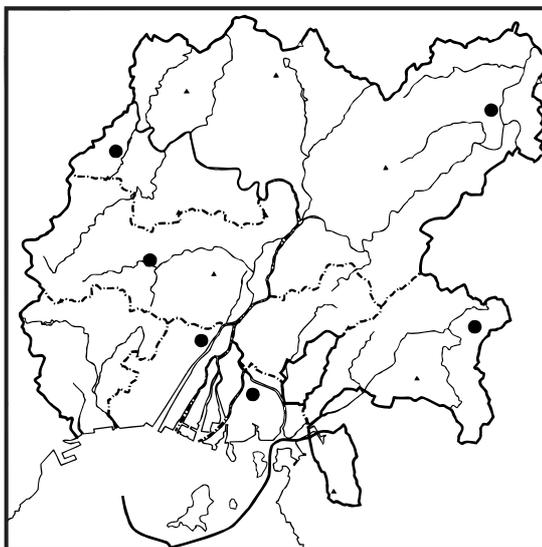
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

カビゴケ（タイ類，クサリゴケ科）

Leptolejeunea elliptica

生きている葉の上に生育する微小な葉上タイ類。本州（千葉県以西）～沖縄に分布。茎は長さ5～10mmで，不規則に分枝して横にはう。葉に油体を含む大きな細胞があり，ハッカに似た芳香がある。

西区，安佐北区などで記録されている。西区の生育地は古くから知られ，現在も健在である。空中湿度の高い渓谷に分布し，大気環境の変化に敏感である。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

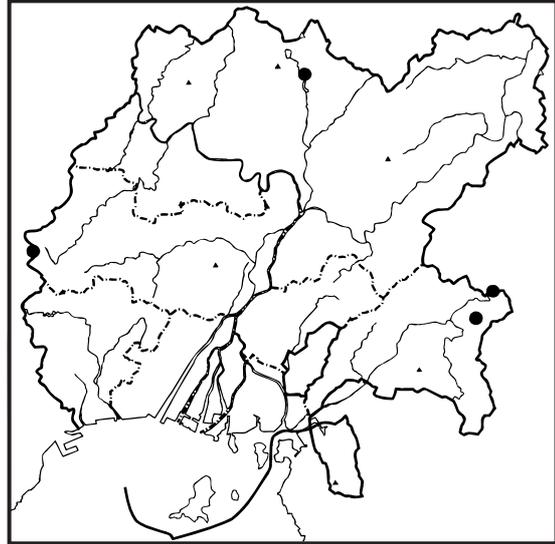
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

クマノゴケ（セン類，キセルゴケ科）

Theriotia lorifolia

水しぶきのかかるような岩上に生えるセン類。本州，四国，九州に分布。葉は短い茎から群がって出て，長さ6~12mm，黒緑色でやや光沢がある。

安芸区，安佐北区，安佐南区で記録されており，今回の調査でも4カ所で確認された。溪流の流れが急になる崖地や滝などの岩面にみられ，しばしば沈水している。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

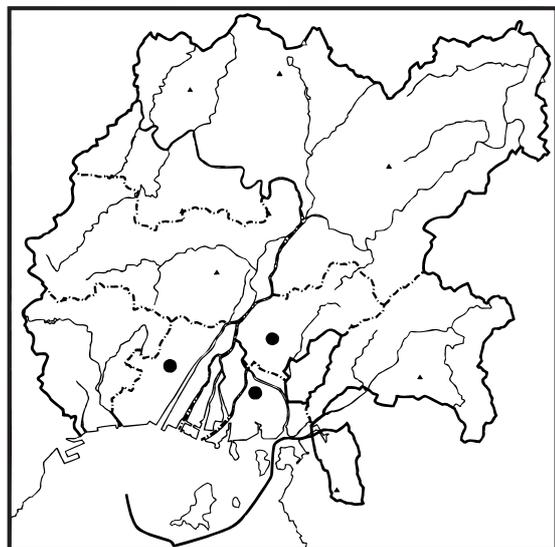
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ユウレイホウオウゴケ（セン類，ホウオウゴケ科）

Fissidens protonemaecola

本州（関東地方以西の太平洋側と瀬戸内海側），伊豆七島，四国，九州に分布。緑色の原糸体の上に，長さ0.8~2mmの胞子体が散生する。きわめて微小なコケで，野外で見つけにくい。

東区などで記録されている。このほかに，戦前に比治山で記録されたものは，現在は見つかっていない。西区の産地も住宅地になっている。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

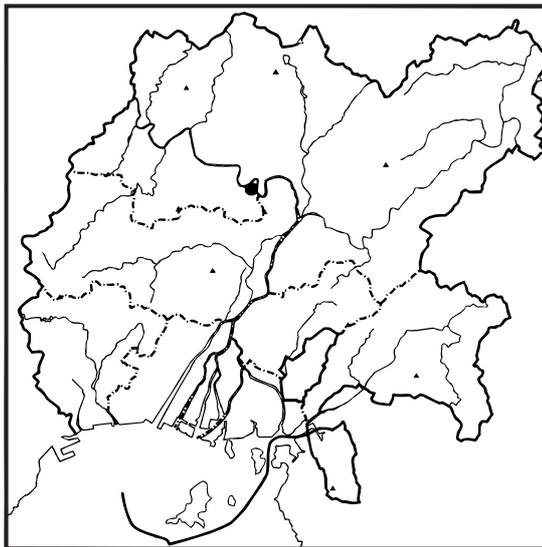
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

フロウソウ（セン類，コウヤノマンネングサ科）

Climacium dendroides

湿った地上に生育する大形のセン類。北海道～九州に分布。茎は根茎のように地中をはい、その先端が立ち上がって直立し、3～5cmに達する。コウヤノマンネングサに似るが、枝先が鈍く分枝が不規則である。

1996年に安佐北区で1カ所記録されているだけである。湿った砂地に生育している。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

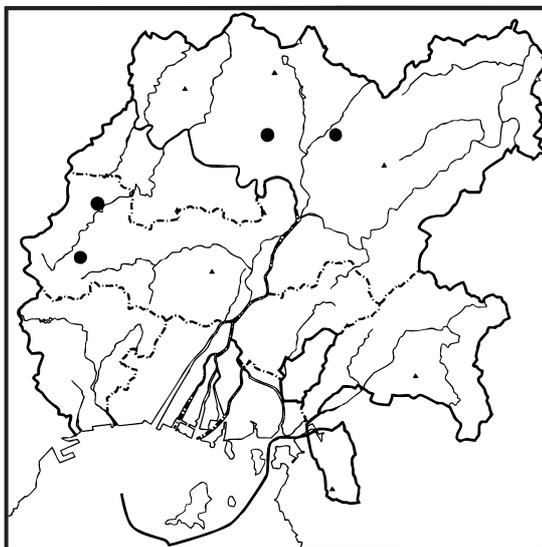
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ソリシダレゴケ（セン類，ハイヒモゴケ科）

Chrysocladium retrorsum

山地の空中湿度の高い渓谷や山頂部の樹木の枝や幹から垂れ下がるセン類。本州（関東地方以西）～沖縄に分布。茎は5～20cmで、所々から枝を分ける。黄緑色で部分的に黒褐色を帯びる。

安佐北区，安佐南区で記録されているが，安佐北区の現状は不明。市域では樹枝から垂れ下がるほどの旺盛な生育状態はみられない。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

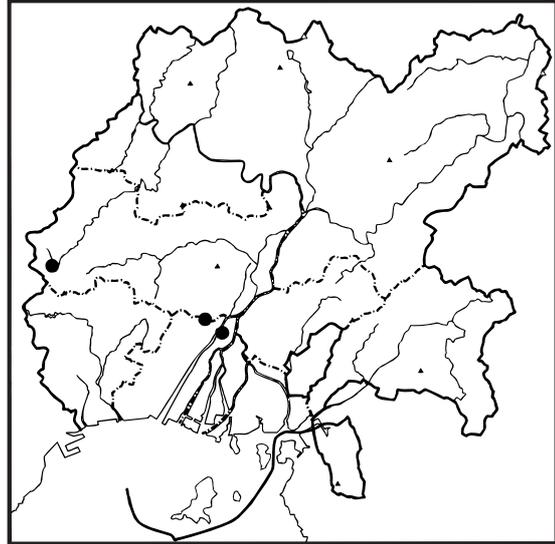
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

サワクサリゴケ（タイ類、クサリゴケ科）

Lejeunea aquatica

温暖な地域の溪流の水中に浸った岩上に密着するタイ類。本州（静岡県以西）、四国、九州に分布。茎は不規則に分枝して、横にはい暗緑色。長さ1～4cm，幅は葉を含めて1.5～2mm，茎葉の下片が小さいのが特徴である。

西区などでの記録があり，今回の調査でも岩上で1カ所確認された。安佐南区でも1カ所見つけた。西区三滝が基準標本産地である。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

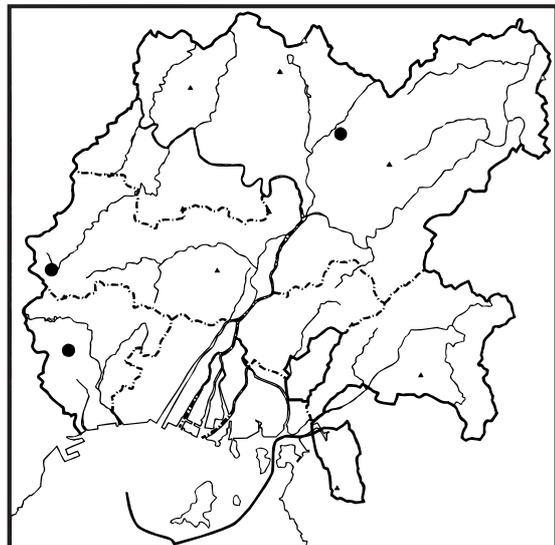
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

エビゴケ（セン類、エビゴケ科）

Bryoxiphium norvegicum ssp. *japonicum* □

湿った岩面に密生するセン類。北海道～九州に分布。茎は直立し，高さ1～2cm。葉は2列に並び，上部の葉に毛状の突起があり，エビのように見えるので，この名がある。

安佐北区，佐伯区で記録されており，今回の調査で安佐南区で確認された。溪流に沿う陰湿な岩上に群生している。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

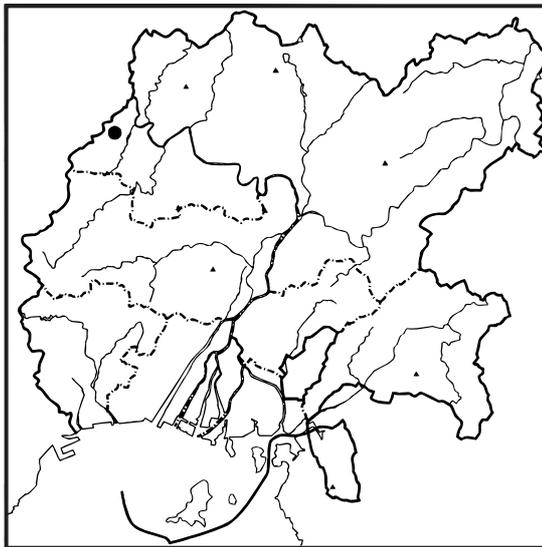
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

ツクシヒラツボゴケ（セン類，ハイゴケ科）

Glossadelphus ogatae

清澄な溪流の湿ったあるいは沈水した岩上に生えるセン類。本州（中部以西），四国，九州に分布。茎は横にはい不規則に分枝し，長さ2～5cm，幅は葉を含めて2～2.5mm，岩面に密着する。褐色から紅緑色。

安佐北区で1998年に確認された。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

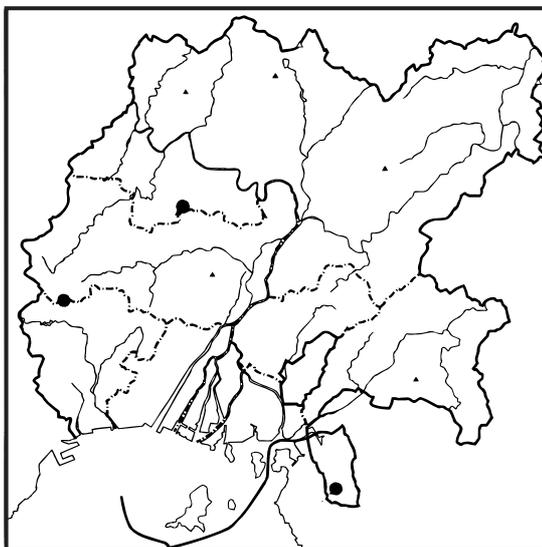
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

キノクニキヌタゴケ（セン類，ヒムロゴケ科）

Palisadula chrysophylla

乾いた岩上に生えるセン類。本州（中部以西），四国，九州に分布。細い茎が不規則に分かれて岩面を横にはい，枝は直立して3～5mm，黄緑色で光沢がある。

佐伯区に記録があり，安佐北区と安佐南区の境界，安芸区かこうがんの2カ所で1999年に確認されている。花崗岩の岩面に生育しており，現状に大きな変化はない。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

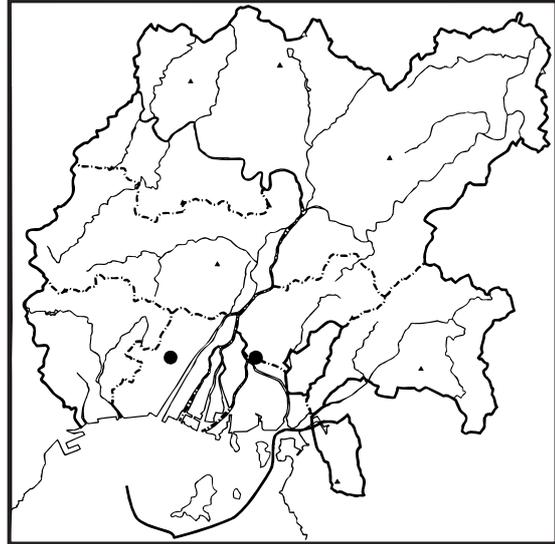
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

ウロコゼニゴケ（タイ類，ウロコゼニゴケ科）

Fossombronia foveolata var. *cristula*

人家に近い庭園，畑，水田，貯水池の泥上などに生えるタイ類。本州（関東地方以西）～沖縄に分布。植物体はコンブのような形の葉状体で，黄緑色，長さ1～2cm。

1960年代までは，西区などの水田あぜにみられたが，そこは住宅地になってしまった。山間部の水田にはまだあると思われるが，今回の調査では確認できなかった。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

ウキゴケ（タイ類，ウキゴケ科）

Riccia fluitans

水田や湿った庭園の土上や池や小流の水面にみられるタイ類。日本全土に分布。植物体は小さいコンブのような葉状体で，規則的に二又分枝し黄緑色，地上では長さ1cm程だが，流水中では5cm以上になる。

1970年代までは，水田に普通にみられたが，除草剤の使用や冬期に厩肥きゅうひを施すなど，水田耕作の方式の変化によって激減した。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

イチョウウキゴケ（タイ類，ウキゴケ科）

Ricciocarpos natans

水田や池の水面に浮遊するタイ類。本州～沖縄に分布。植物体は葉状体で、二又分枝してイチョウの葉のような形になり、長さ1～15cm。

1970年代までは、山間部の水田や溝に普通であった。夏期の水田にウキクサと混生して水面に浮遊し、また溝や池にも生育していたが、現状不明。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

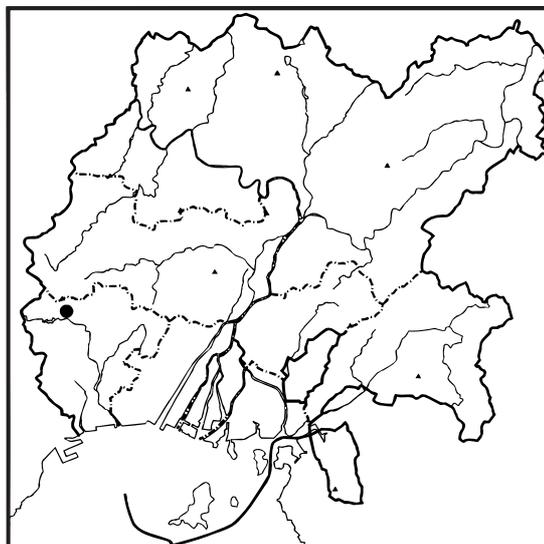
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

キセルゴケ（ウチワチョウジゴケ）（セン類，キセルゴケ科）

Buxbaumia aphylla

山地の腐植土あるいは腐植をかぶった岩上に生えるセン類。北海道～九州にまれに分布。配偶体は微小で地面に薄く広がり、褐緑色。そこから高さ1～2cmのキセルのような孢子体が直立する。

西区の山麓^{さんろく}などで記録されているが、1962年以降、確認されていない。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

ホウライスギゴケ（セン類，スギゴケ科）

Pogonatum cirratum

温暖な谷間で，陰湿な地上に生えるセン類。本州（中部地方以西）～沖縄に分布。茎は群がって直立し，スギの葉に似る。高さ5～10cm。

西区，安佐北区などで記録されているが，西区の産地は住宅地になった。安佐北区ほかの状況は不明である。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

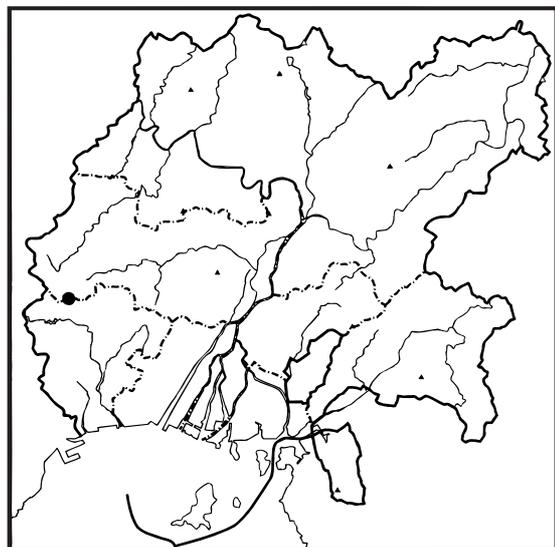
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

ナワゴケ（セン類，ヒムロゴケ科）

Eumyurium sinicum

山地の樹幹に着生あるいは岩上に生えるセン類。本州（東北地方以南），四国，九州に分布。基部に小さい茎が横にはうが目立たず，枝は長さ5～7cmで数本が群がり，葉はひも状に丸くつく。

佐伯区の山頂近くの岩壁で記録されているが，近年の状況は不明。



コケ植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

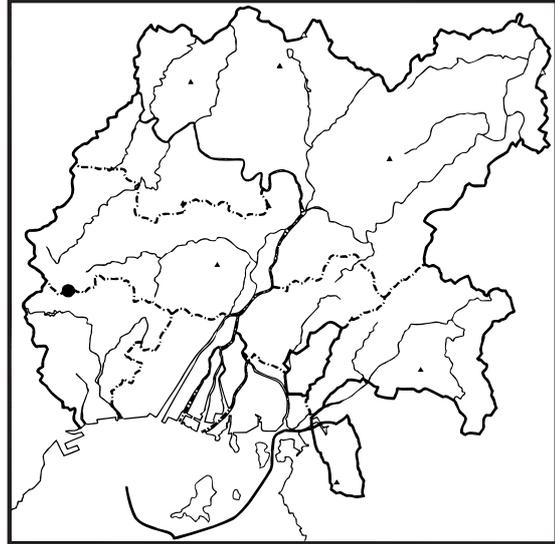
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

カトウゴケ（セン類，ヒムロゴケ科）

Palisadula katoi

岩面に生えるセン類。本州（中部以西），四国，九州に分布。細い茎が不規則に分かれて岩面を横にはい，枝は疎らに分枝して直立し，高さ2～5mm，葉は丸く群がつつく。植物体は所々赤褐色を帯びた黄緑色で光沢がある。

佐伯区で1960年代に採集されてから，確認されていないが，生育地は環境が比較的良好に保全されているので，現存していると思われる。



コケ植物

環境指標種

その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

オオミズゴケ（セン類，ミズゴケ科）

Sphagnum palustre

山地や丘陵地の花崗岩地帯の湿った谷などに生えるセン類。北海道～沖縄（尖閣列島の魚釣島）に分布。茎は直立して群生し，高さ10～15cm，湿っていると褐緑色で，乾くと白っぽい緑色。水分をよく吸収する。

市内全域にみられ，安佐南区や西区の山地では山すそや谷沿いでよく見かける。湿原植生の環境指標となる。



コケ植物

環境指標種

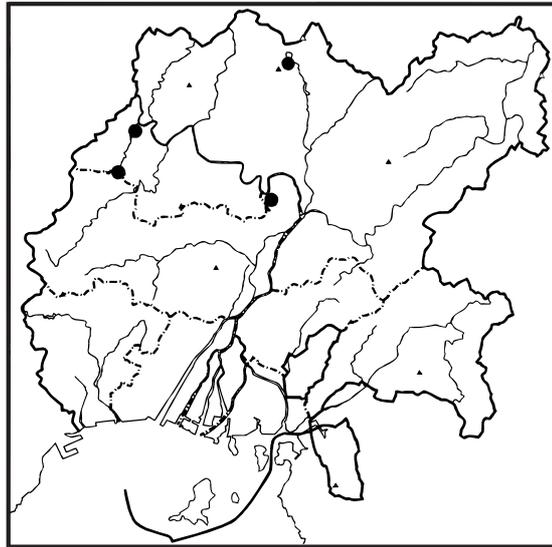
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

キヨスミイトゴケ（セン類，ハイヒモゴケ科）

Barbella flagellifera

渓谷や山頂部の樹木の枝，幹に着生して，長く糸状に垂れ下がるセン類。本州（関東地方以西），四国，九州に分布。茎ははい，不規則に枝を出す。枝は淡緑色で長く伸び垂れ下がり，5～10cm。

安佐北区の数か所で確認された。空中湿度の高い渓谷の環境指標となる。本種の生育する環境にはシダ植物やコケ植物が多く，しばしば貴重種もみられる。



地衣類

(現状の解明度)

広島県の地衣類の研究は、他の地域に比べれば進んでいるといえるが、地衣類相の全容を把握するところまでには至っておらず、種ごとの分布状態を示せる状況にない。

1997年にまとめられた「広島県植物誌」は、広島県の地衣類に関する文献77点にもとづいて整理された広島県産地衣類として、45科94属382種(3亜種32変種22品種)を報告している。

このたび、詳細な文献調査(27点)に加え、標本調査と現地調査を行うことによって、広島市の地衣類として、22科47属112種(1亜種12変種7品種を含む)を確認することができた。

(選定種の抽出過程)

これまでのところ、環境庁レッドリストに掲載されている種は、広島市では確認されていない。また、「広島県版レッドデータブック」と「広島市稀少生物調査報告」では、地衣類は対象とされていない。

近年、森林の伐採や荒廃、大気汚染などによる環境の変化とともに、自然環境の多様性の減少や、植生の変化が生じてきており、広島市域においても地衣類の質的・量的減少がみられ、ほとんど生存が確認できなくなっている種が出てきているのが現状である。

今回は、それらのうち、ウメノキゴケ科のトコブシゴケ類、カプトゴケ科のカプトゴケ類とエビラゴケ類、アンチゴケ科のアンチゴケ類を、選定候補種として抽出した。

これらの地衣類は、広島市では自然度が高く、しかも、よく発達している常緑広葉樹林内の樹幹やコケ・岩の上に出現する大型の葉状地衣で、大気中の湿度をはじめとする環境条件に変化が生じると、たちまち消失して再び出現することがない、広島市では貴重な地衣類である。

(現地調査結果)

選定候補種の現状把握に重点を置いて、市域において自然度がより良く保たれている常緑広葉樹林と、その名残をとどめている二次林を集中的に現地調査を実施した。

選定候補種は、これまでに、福王寺山、白木山、鬼ヶ城山、窓ヶ山、牛田山などでの記録や、採集標本がある。今回の調査では、わずかに福王寺山でアンチゴケとトゲトコブシゴケ、ヘラガタカプトゴケ、エビラゴケの4種を確認したのみであった。今後さらに詳細な調査を行う必要がある。

(選定結果)

9種を選定した。内訳は、広島市の絶滅のおそれのあるもの9種(絶滅危惧9種)である。

選定種は、広島市域にあって自然度が高く、しかも良く発達した良好な生態系を

保っている森林に限って生存する種であり，かつ確認地点も少なく，近年個体数も急激に減少している種に限った。これまでに報告されている対象種のうち，今回の調査ではその生存を確認できなかった種も多いが，今後の詳細な調査で確認される可能性もある。

地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧^く

アンチゴケ

トゲトコブシゴケ

チヂレトコブシゴケ

オオスルメゴケ

チヂレコヨロイゴケ

エビラゴケ

ウラグロエビラゴケ

ヘラガタカブトゴケ

トゲヨロイゴケ

地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

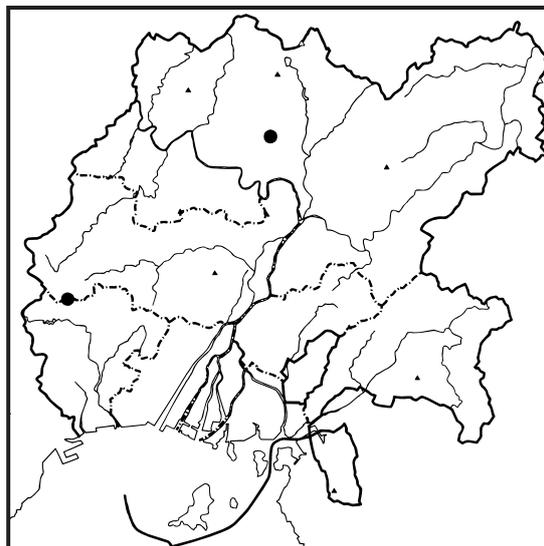
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

アンチゴケ（アンチゴケ科）

Anzia opuntiella

よく発達した樹林の、樹木あるいは岩上生えるコケ植物の上に生育する葉状地衣。サボテン状に多数の裂片が連なり、腹面には黒色の菌糸からなる海綿状組織がある。

安佐北区、安佐南区で記録されている。最近、急激に個体数が減少しており、ほとんど見かけることがなくなっている。



地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

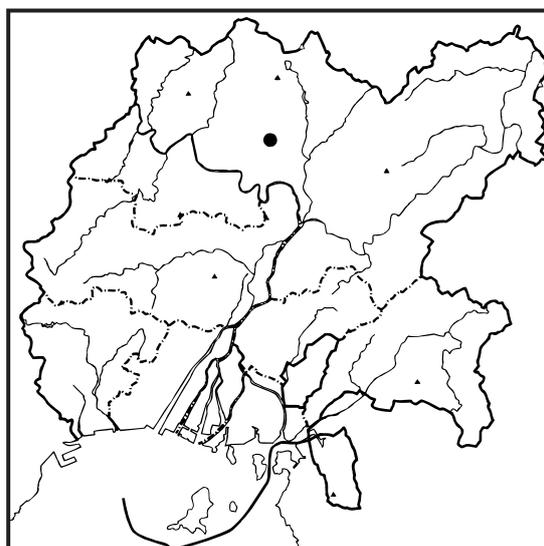
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

トゲトコブシゴケ（ウメノキゴケ科）

Cetrelia braunsiana

よく発達した樹林内の、樹皮上あるいは岩上に生える大形の葉状地衣。裂芽を有している。

安佐北区の1カ所で記録されているが、急激に個体数が減少している。



地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

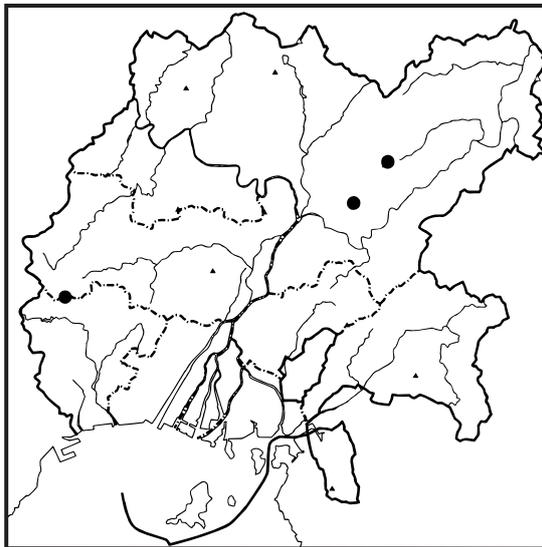
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

チチレトコブシゴケ（ウメノキゴケ科）

Cetrelia japonica

よく発達した樹林内の、樹皮あるいは岩上に生える大型の葉状地衣。表面に擬盃点^{ぎはいてん}を有する。

安佐北区，安佐南区，佐伯区で記録されているが，近年，急激に個体数の減少がみられる。



地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

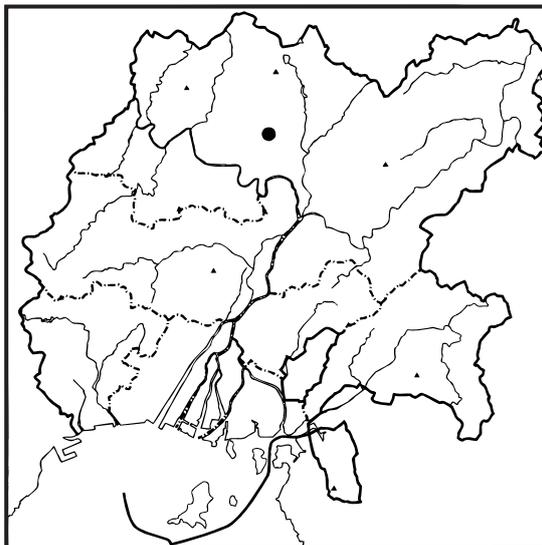
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

オオスルメゴケ（ウメノキゴケ科）

Tuckermannopsis ulophylloides

樹林内の主として岩上，まれに樹皮上に生える。本州（伊豆以南），四国に分布。地衣体の裂片は細長く，叉状分岐する。体色は褐色を帯びる。

安佐北区，安佐南区のそれぞれ1カ所で記録されているが，急激に個体数が減少している。山頂部の岩塊の間に着生する。



地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

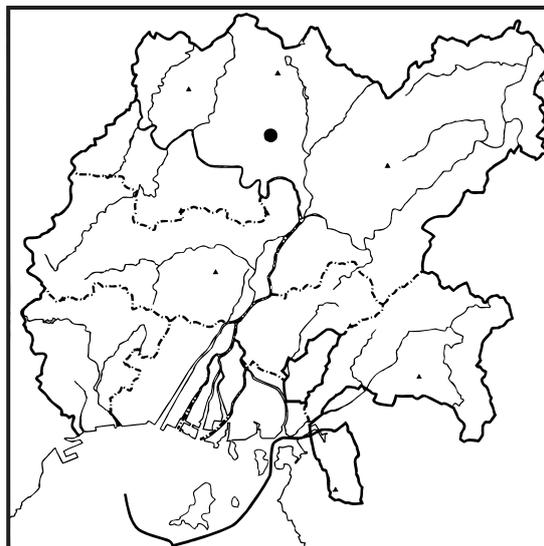
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

チヂレコヨロイゴケ（カプトゴケ科）

Lobaria crassior

山地の森林内の樹木、時に岩上に着生する大形葉状地衣。北海道，本州，九州に分布。径4～6cm，中凹の裂片は細裂した小裂片で縁どられる。

安佐北区の1カ所で記録されているが，個体数が急激に減少している。



地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

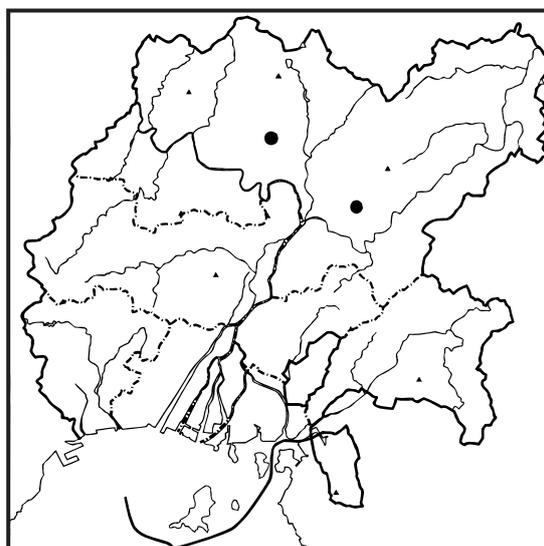
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

エビラゴケ（カプトゴケ科）

Lobaria discolor var. *discolor*

山地の森林内の樹皮上に着生する大形の葉状地衣。表面平滑で少し光沢がある。

安佐北区の2カ所で記録されているが，近年，個体数が急激に減少している。



地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

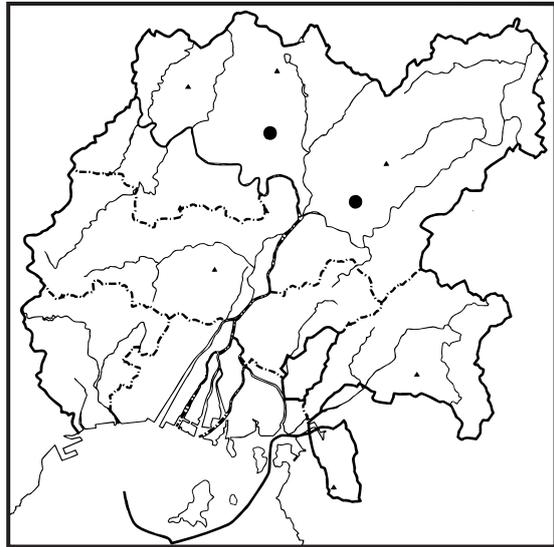
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ウラグロエビラゴケ（カプトゴケ科）

Lobaria fuscotomentosa

よく発達した樹林の樹木上に出現する大形の葉状地衣。北海道，本州，四国に分布。径 25cmにもなり，表面にしわが多く裏面は黒褐色。

安佐北区の 2カ所で記録されているが，急速な個体数の減少がみられ，近年の確認報告はない。



地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

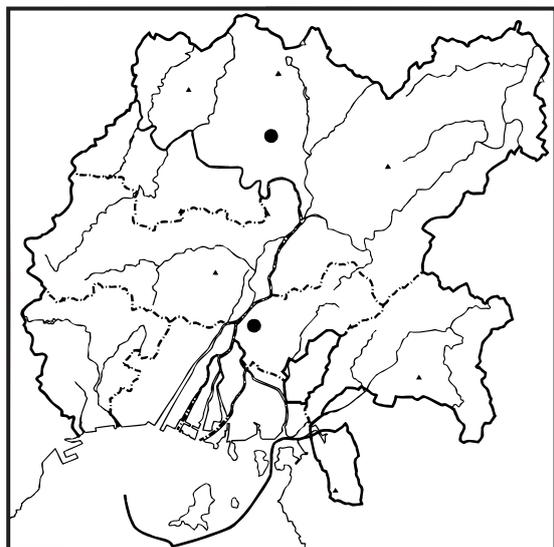
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ヘラガタカプトゴケ（カプトゴケ科）

Lobaria spathulata

山地の森林内の樹皮上に出現する大形の葉状地衣。ナメラカプトゴケやチヂレカプトゴケに似るが，葉縁にヘラ形の裂芽又は小裂片をつける。

安佐北区，東区のそれぞれ 1カ所で記録されているが，個体数の減少が著しい。



地衣類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

トゲヨロイゴケ（カプトゴケ科）

Sticta weigeli

山地の森林内の湿った岩上などに着生している中形の葉状地衣。本州，四国に分布。多くの裂片に分かれ，腹面に^{はいてん}盃点をもつ。

1960年に安佐北区で小さな個体が記録されているが，その後の確認はない。これが広島県で唯一の記録である。森林内の水分条件の変化により影響を受けやすい。

